

受験番号

氏 名

実技試験（鉛筆写生）

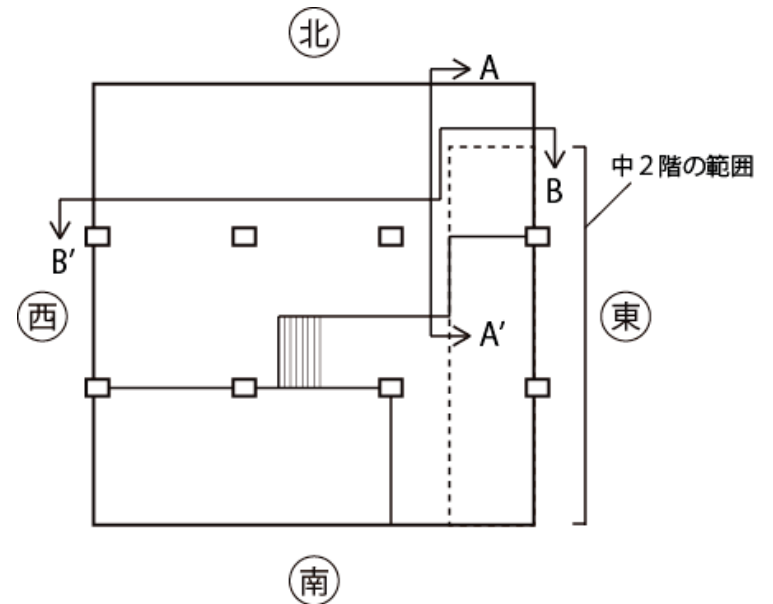
9月20日(水) 10:00—12:00 (1時間 昼休み) 13:00—14:30

- 課題1** ① A3方眼紙に、大石膏室の東側立断面図を描く。
② A3方眼紙に、大石膏室の南側立断面図を描く。

1. 配布物

- ・ 課題用紙（本紙）
- ・ A3方眼用紙×2枚：提出用
- ・ 下書き用白紙1枚
- ・ 画板

※なお、配布物は終了後すべて回収します。



2. 写生の対象

試験会場である、大石膏室内。建築物本体のほかにも、建具、手摺、照明器具を含む。縮尺1/100程度の図面を製図する場合を想定した時に省略すると考えられるものや、展示されている石膏像及び台座は含まない。

（試験会場：天野太郎設計 元芸大建築学科教授 1970年竣工）

3. 写生の内容

① 東側立断面図

縮尺1/100の図面製図を目的とした、東側立断面図の野帳をフリーハンドで作成する。A-A'位置（上図参照）の断面を描き、東壁面の立面を描き加える。また、実測に必要な寸法線を記入する。寸法の数値は不要。

② 南側立断面図

縮尺1/100の図面製図を目的とした、南側立断面図の野帳をフリーハンドで作成する。B-B'位置（上図参照）の断面を描き、南壁面の立面を描き加える。また、実測に必要な寸法線を記入する。寸法の数値は不要。

4. その他 注意事項

- ・ 寸法線も含めて定規は使わずフリーハンドで描くこと。
- ・ 写生の対象と内容については各自が判断することとし、質問は受け付けない。
- ・ 立断面図作成のために、A-A'およびB-B'ライン付近に立ち入ることは可とするが、中2階は立入禁止とする。
- ・ 他の受験生の邪魔にならないよう、静粛を旨とする。静粛の維持について試験監督者の指示に従わない場合、作業の中止、さらには受験を中止させる場合がある。
- ・ 試験時間中は携帯電話の電源を切り、身につけないこと。
- ・ 立入禁止の掲示や指示がある場合は、これに従う。物品に触れて破損したりすることのないよう、十分に気をつける。
- ・ 課題用紙、A3方眼用紙、下書き用白紙、すべてに受験者の専攻・番号等を所定の位置に記入し、試験会場から持ち帰らないこと。

受験番号

氏 名

実技試験（鉛筆写生）

9月20日(水) 15:00—16:00

課題2 A3方眼紙に、提示した器物の見上図と断面図を描く。

1. 配布物

- ・ 課題用紙（本紙）
- ・ A3方眼用紙×1枚：提出用
- ・ 下書き用白紙1枚
- ・ コンベックス

※なお、配布物は終了後すべて回収します。

2. 写生の対象

提示した器物の実測図（見上図と断面図）をフリーハンドで作成し、実測する。縮尺は自由としA3方眼紙1枚にレイアウトすること。

使用に伴う汚れや傷は無視して良い。

3. 写生の内容

見上図と断面図の野帳を作成し、寸法線と寸法を記入する。また、気づいた事項を注記する。

4. その他 注意事項

- ・ 寸法線も含め定規は使わずフリーハンドで描くこと。
- ・ 写生の対象と内容については各自が判断することとし、質問は受け付けない。
- ・ 作業は自席で行い、静粛を旨とする。席からの移動や静粛の維持について試験監督者の指示に従わない場合は、作業の中止、さらには受験を中止させる場合がある。
- ・ 試験時間中は携帯電話の電源を切り、身につけないこと。
- ・ 課題用紙、A3方眼用紙、下書き用白紙、すべてに受験者の専攻・番号等を所定の位置に記入し、試験会場から持ち帰らないこと。

平成30年度東京芸術大学大学院 美術研究科文化財保存学専攻 保存修復(建造物) 入学試験

受験番号

氏 名

筆答試験 (1) 小論文

問題：文化財を保護する社会的な意義と、文化財建造物の保存・活用について、下記の枠内（４０行）で述べなさい。

[illegible]

受験番号

氏 名

筆答試験（2）問題及び解答用紙

問題Ⅰ 別紙1に写真で示した①から⑧の各建造物について、建造物の名称、建設年代、主な建築的特徴を下の枠内に記しなさい。
なお、建設年代は「○世紀」のような大まかな時期の表記でもよい。

番号	建造物の名称	建設年代	主 な 建 築 的 特 徴
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			

問題Ⅱ 日本の世界遺産のうち文化遺産から1件、重要伝統的建造物群保存地区から1地区をそれぞれ選び、その名称を記して、各2行以内で説明しなさい。

(1) 世界遺産 名称：
説明：

(2) 保存地区 名称：
説明：

問題Ⅲ 別紙2には、西明寺本堂〔国宝 滋賀県 鎌倉時代前期〕の立面図と断面図を掲げてあります。図中に矢印で示した①から⑯の建築部材の名称を以下に記しなさい。

①： ②： ③： ④： ⑤： ⑥： ⑦： ⑧：

⑨： ⑩： ⑪： ⑫： ⑬： ⑭： ⑮： ⑯：

問題Ⅳ 以下の（1）～（8）から2語を選んでその番号を（ ）に記し、各3行以内で説明しなさい。

(1) 薬師寺三重塔 (2) 中尊寺金色堂 (3) 禅宗様 (4) 書院造 (5) 妻飾 (6) 檜皮葺 (7) 舞良戸 (8) 三和土
番号（ ）説明：

番号（ ）説明：

問題Ⅴ 別紙3の英文は、1994年の世界文化遺産奈良コンファレンスで採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」の一部です。日本語で大意を記しなさい。なお、英語辞書等の使用は認めない。

筆答試験（2） 別紙 1

問題 I 写真 ①～⑧

受験番号

氏 名

①

②

（法隆寺中門）

（唐招提寺金堂）

③

④

（出雲大社本殿）

（平等院鳳凰堂）

⑤

⑥

（東大寺南大門）

（慈照寺銀閣）

⑦

⑧

（姫路城天守）

（清水寺本堂）

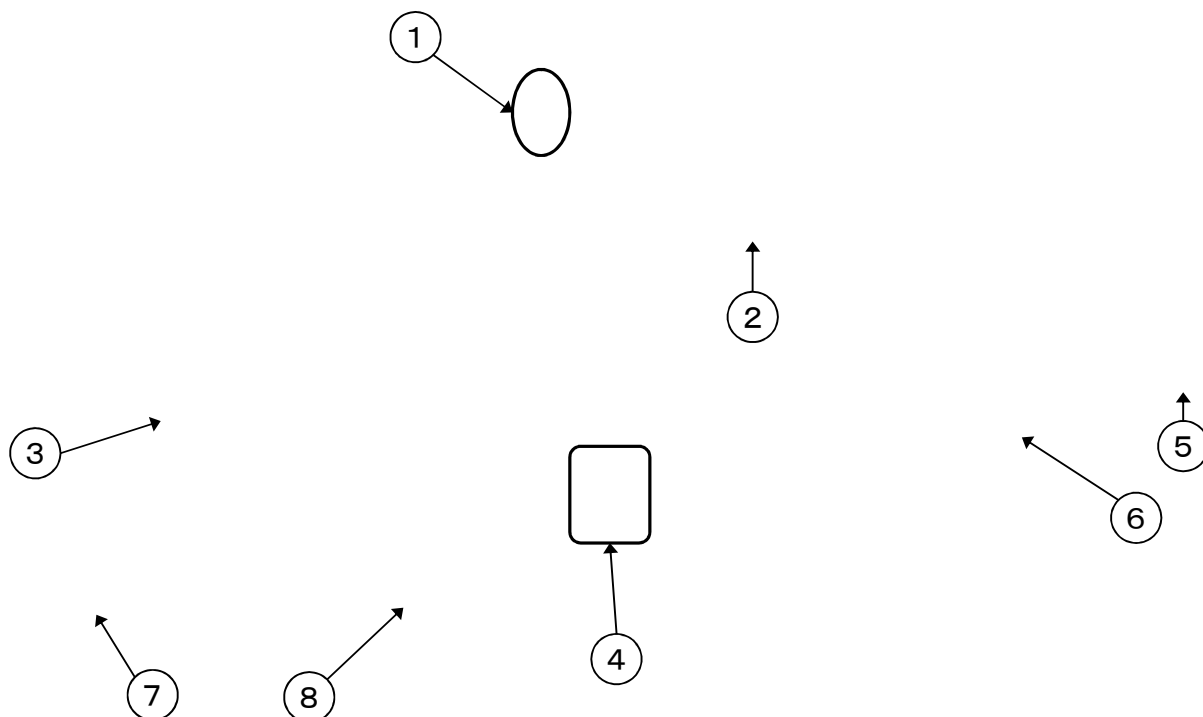
筆答試験（2） 別紙 2

問題Ⅲ 図面

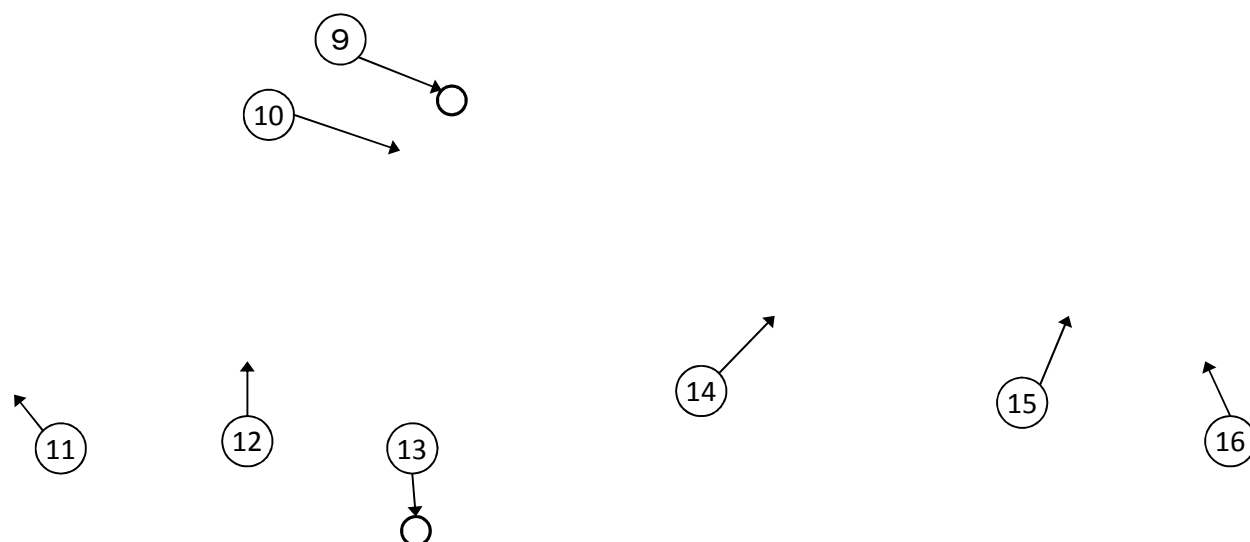
受験番号

氏 名

（西明寺本堂 立面図）



（西明寺本堂 断面図）



受験番号

氏 名

筆答試験(2) 別紙3

問題Ⅴ 英文

THE NARA DOCUMENT ON AUTHENTICITY

(Nara Conference on Authenticity in Relation to the World Heritage Convention, Nara, Japan, November, 1994)

Values and authenticity

9. Conservation of cultural heritage in all its forms and historical periods is rooted in the values attributed to the heritage. Our ability to understand these values depends, in part, on the degree to which information sources about these values may be understood as credible or truthful. Knowledge and understanding of these sources of information, in relation to original and subsequent characteristics of the cultural heritage, and their meaning, is a requisite basis for assessing all aspects of authenticity.

10. Authenticity, considered in this way and affirmed in the Charter of Venice, appears as the essential qualifying factor concerning values. The understanding of authenticity plays a fundamental role in all scientific studies of the cultural heritage, in conservation and restoration planning, as well as within the inscription procedures used for the World Heritage Conventions and other cultural heritage inventories.

11. All judgments about values attributed to cultural properties as well as the credibility of related information sources may differ from culture to culture, and even within the same culture. It is thus not possible to base judgments of value and authenticity on fixed criteria. On the contrary, the respect due to all cultures requires that heritage properties must be considered and judged within the cultural contexts to which they belong.

12. Therefore, it is of the highest importance and urgency that, within each culture, recognition be accorded to the specific nature of its heritage values and the credibility and truthfulness of related information sources.

13. Depending on the nature of the cultural heritage, its cultural context, and its evolution through time, authenticity judgments may be linked to the worth of a great variety of sources of information. Aspects of the sources may include form and design, materials and substance, use and function, traditions and techniques, location and setting, and spirit and feeling, and other internal and external factors. The use of these sources permits elaboration of the specific artistic, historic, social and scientific dimensions of the cultural heritage being examined.